

# 旧郷野小校舎を調査

## 吉田耐震性など診断

### 広工大や呉高専の学生

広島工業大（広島市佐伯区）環境学部建築デザイン学科の学生たちが、3月末に閉校した安芸高田市吉田町の旧郷野小の木造校舎について、老朽化の進み具合や耐震性の調査を進めている。築84年の校舎を「教材」として活用し、約1年半かけて診断する。旧郷野小の活用に取り組む住民グループ「郷野小学校再生プロジェクト」は、校舎の価値を見直す結果になればと期待し、調査に協力している。

（和泉恵太）



旧郷野小の木造校舎内で、調査結果を報告し合う光井講師（左端）と学生

を語る。光井講師は「極端に傷んでいる箇所はなく、築年数を考えれば良好な状態」と現時点で評価した。本年度は現地調査を基に校舎の図面を作成。2020年度は建物の構造を分析したり、骨組みの模型を作ったりする予定だ。

同プロジェクトは、校舎を原則解体する方針の市教委と今後の在り方を協議しているが、保存活用には耐震化が課題となっている。今回の調査は、プロジェクトのメンバーに建築士がいる縁で光井講師から提案を受けた。水藤邦夫副代表（62）は「存続へのプラス材料になり得る。将来的に解体されても、調査によって立派な校舎があった記録は永遠に残る」と期待する。

校舎は1935年に完成。良質な木材を厳選し、当時の郷野村の年間予算の約2倍となる総工費を投じて造られた。光井講師は「学生には、校舎を大切に守ってきた地域の思いも感じてほしい。住民と学生の交流を生む機会にもなれば」と願う。

# 地域と学舎

メンバーは同学科の光井周平講師（36）と建築構造学のゼミ生を中心に、呉高専（呉市）の学生も含む約20人。建築技術者などを目指す有志が自主企画として取り組む。今月9、10日に13人が現地を調査。床下や

2階の屋根裏に入って劣化の有無を確認し、廊下の柱の配置や傾きも調べた。リーダーを務める同大3年池田結衣さん（20）は「建物の調査は初めて。講義で学んだ構造などを確かめることができる」とやりがい

動画は中国新聞デジタルで

